

<使用上の注意続き>

#### 4. 適用上の注意

投与経路：外用にのみ使用すること。  
使用時：

- (1) 反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- (2) 血清・膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分洗い落としてから使用すること。
- (3) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。
- (4) 引火性、爆発性があるため、火気には十分注意すること。
- (5) 溶液の状態では長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。

#### 5. その他の注意

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、致例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

#### 【薬効薬理】

1. 本剤は使用濃度において、栄養型細菌(グラム陽性菌及びグラム陰性菌)、酵母様真菌、ウイルス等には有効であるが、細菌芽胞(炭疽菌、破傷風菌等)や一部のウイルスに対する効果は期待できない。
2. ウェルアップハンドローション1%の殺菌作用  
本剤は*in vitro*の試験において、腸球菌、緑膿菌、*Burkholderia cepacia*、セラチアを30秒以内に殺菌した。

#### 【取り扱い上の注意】

本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

#### 火気厳禁

第4類  
アルコール類  
水溶性  
危険等級II  
エタノール

キャップ:PP  
ボトル:PE  
ラベル:PET

使用后、フィルムをはがしてキャップをはずした後、空容器を筒のようにして折り目を外側に押しつぶして下さい。  
(つぶした後は元に戻りません。)



開封日 年 月 日

とりかえの目安 年 月 日

## 速乾性擦式 手指消毒剤 ウェルアップ® ハンドローション1%

500mL  
Wellup® Hand Lotion 1%  
クロルヘキシジン製剤

# 1%

製造番号

使用期限

発売・技術提携  吉田製薬株式会社  
東京都中野区中央5-1-10

製造販売元  丸石製薬株式会社  
大阪市鶴見区今津中2-4-2

残目  
量安

400

300

200

100

## ウェルアップ® ハンドローション1%

2018年10月改訂(第5版)	
*2017年10月改訂	
日本標準商品分類番号	872619
承認番号	22200AMX00910
薬価収載	未収載
販売開始	2011年1月
再評価結果	1992年6月

貯法：1. 遮光した気密容器に入れて保存。  
2. 火気避けて保存。

使用期限：3年(表示の使用期限を参照すること。)

注意：取扱以上の注意の項参照

#### \*【禁忌(次の場合には使用しないこと)】

- (1) クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある者
- (2) 脳、脊髄、耳(内耳、中耳、外耳)  
[聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。]
- (3) 喉、扁桃、口腔等の粘膜面  
[クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。]
- (4) 損傷皮膚及び粘膜[エタノールを含有するので、損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。]
- (5) 眼

#### 【組成・性状】

1. 組成 100mL 中  
クロルヘキシジングルコン酸塩 1.0g(1.0w/v%)  
及び添加物としてグリセリン、グリチルリチン酸二カルウム、中鎖脂肪酸トリグリセリド、エタノール、pH調整剤含有。
2. 性状  
無色澄明の液で、特異なにおいがある。  
メタノール又はエタノール(95)と混和する。  
本品10mLはアセトン10mL以下又は水1mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。  
比重  $d_{20}^{20}$ : 0.862~0.872

#### 【効能・効果】

手指・皮膚の消毒

#### 【用法・用量】

手指・皮膚の消毒には、洗浄後、1日数回適量を塗布する。

# 1%

\*【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の場合には慎重に使用すること)
  - (1) 薬物過敏症の既往歴のある者
  - (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある者
2. 重要な基本的注意
  - \* (1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏症の有無について十分な問診を行うこと。
  - (2) 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。
  - (3) 産婦人科用(産・外陰部の消毒等)、泌尿器科用(膀胱・外性器の消毒等)には使用しないこと。
  - (4) 本剤の使用中に誤って眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には、直ちによく水洗すること。
  - (5) 広範囲又は長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。[エタノール蒸気に大量には繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。]

#### 3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

#### \* (1) 重大な副作用

ショック(Q.1%未満)、アナフィラキシー(頻度不明)ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

#### (2) その他の副作用

	頻度不明	Q.1%未満
過敏症 <sup>(注1)</sup>		発疹・蕁麻疹等
皮膚 <sup>(注2)</sup>	刺激症状	

注1) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

注2) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

<使用上の注意続く>ア

残目  
量安

400

300

200

100